

Japanese AP, Japanese V, & Japanese Native Speaker Required Poem

ひとつの星

むらかみあきお
村上昭夫

私たちは思い出さなくてはならない
私たちがもっていた ひとつの星のことを

私たちが生まれる以前から
ひとつの星しか もっていなかったのだ
その星の名を なぜ十とおになるまでわすれるのか
なぜ二十歳はたちになるまで うしなうのか

私たちは となえなくてはならない
私たちのひとつの星の名を
私たちが なぜこの世よに生まれたのか
なぜこの町まちに そんざいしているのか
私たちが死ぬまでに
しなければならぬのは 何なになのか

私たちは 行ゆかなければならない
うさぎが いばらの道みちを行くように
わたり鳥どりが 暗夜あんやの空を たびするように

そして私たちは たずねなければならぬ
なぜ やまなければならぬのか
なぜ やみながらも
生きなければならぬのか

ああ そこにひとつの星があるのだ
私たちのわすれた星 ゆえあってわすれた星
そのひとつの星のことを
私たちは思い出さなくてはならないのだ

Japanese AP, Japanese V, & Japanese Native Speaker Alternate Poems

にぎりこぶし 村野四郎

悲しい時や 苦しい時
僕はいつも
こぶしを 固く握りしめる
すると、苦しみや 悲しみは
みんな 僕から 逃げてゆく
勉強で 泣きたくなったとき
僕はぐっと
こぶしを 固く握りしめる
すると、本の字が はっきり見えてくる
また、 北風が ビュービュー ふいて
僕をいじめる時
ぼくは胸をはり
ぐっと、こぶしを握りしめる
すると 風のやつ
急に道ばたの木へ 逃げ帰り
枝を ガサガサ くやしそうに
ゆすっているんだ

『けれども大地は・・・』新川和江

秋が
たえまなく 木の葉を降らせて
ものがたりしている

遠い森で 谷間で
公園で
まどのすぐ外で

そのものがたりに
人びとは耳を傾けはするが
とてもいちどきには
聞きとることも
読みとることもできない

けれども大地は
のこらず すっかり聞いてやって
母親のように
いちばんあとで やすむ